

原子力 ワンポイント

経済産業省は四月十八日、「福島第一原子力発電所事故に係る個人線量の特性に関する調査」の結果をホームページで公表し、「同じ地域に住む人でも、生活パターンの違いによって、個人の被ばく線量は大きく変わる」可能性を明らかにしました。

広く利用されている放射線 29



ゆりちゃん 「場の線量」から「個人線量」測定へってどういう意味ですか？

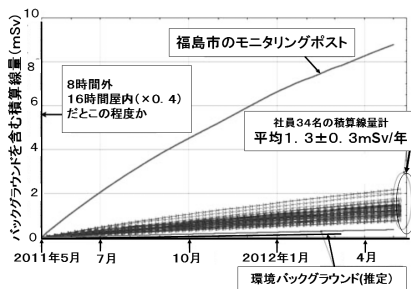
タクさん 福島第一原子力発電所の事故から約三年が経過しました。高いレベルの放射線被ばくの生じる可能性があった初期の「緊急時被ばく状況」から、復興途上の状況と言える「現存被ばく状況」へと移行した今、空間線量率す

定される被ばく線量ではなく、個人線量を用いることを基本とすべき」と提言しました。この考人達が受けた線量を推定する方法から、「個人線量」測定に基づいて、個別対応する方法への変更を期待する声があります。

「個人の行動」により被ばくレベルほぼ決定

高まってきました。原子力規制委員会は二〇一三年十一月、「帰還に向けた安全・安心対策に関する基本的考え方」の中で具体的に、「帰還後の住民の被ばく線量の評価は、空間線量率から推

第1図 TUH 社員 34 名が 2011 年 5 月から 1 年間携帯した積算線量計データ
出典：日本原子力学会誌、Vol. 56, No. 1 (2014)



News No713 (2014) で早野教授(東京大)の講演内容が紹介されています。早野教授は第1図を示し、「福島テレビ局(TUF)のスラップ三十四名が個人線量計を一年間装着した結果、空間線量率を単に線量が高いのか、各人が理解して行動するこ

／年となる被ばく低減につながるだろう」と紹介されたそうです。これに対して、ICRP 第四専門委員会のジャック・ロッシュ(IAEA)は、「被ばくレベルは、個人の行動によって、ほぼ決定されるので、早野教授の報告されたように、個人線量の被ばく線量に

(原産協会・人材育成部)